

# 事業報告書

平成28年度

(第9期事業年度)

自 平成28年 4月 1日

至 平成29年 3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

## I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

### ① 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

### ② 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

### ③ 主たる事務所 酒田市あきほ町30番地

### ④ 役員

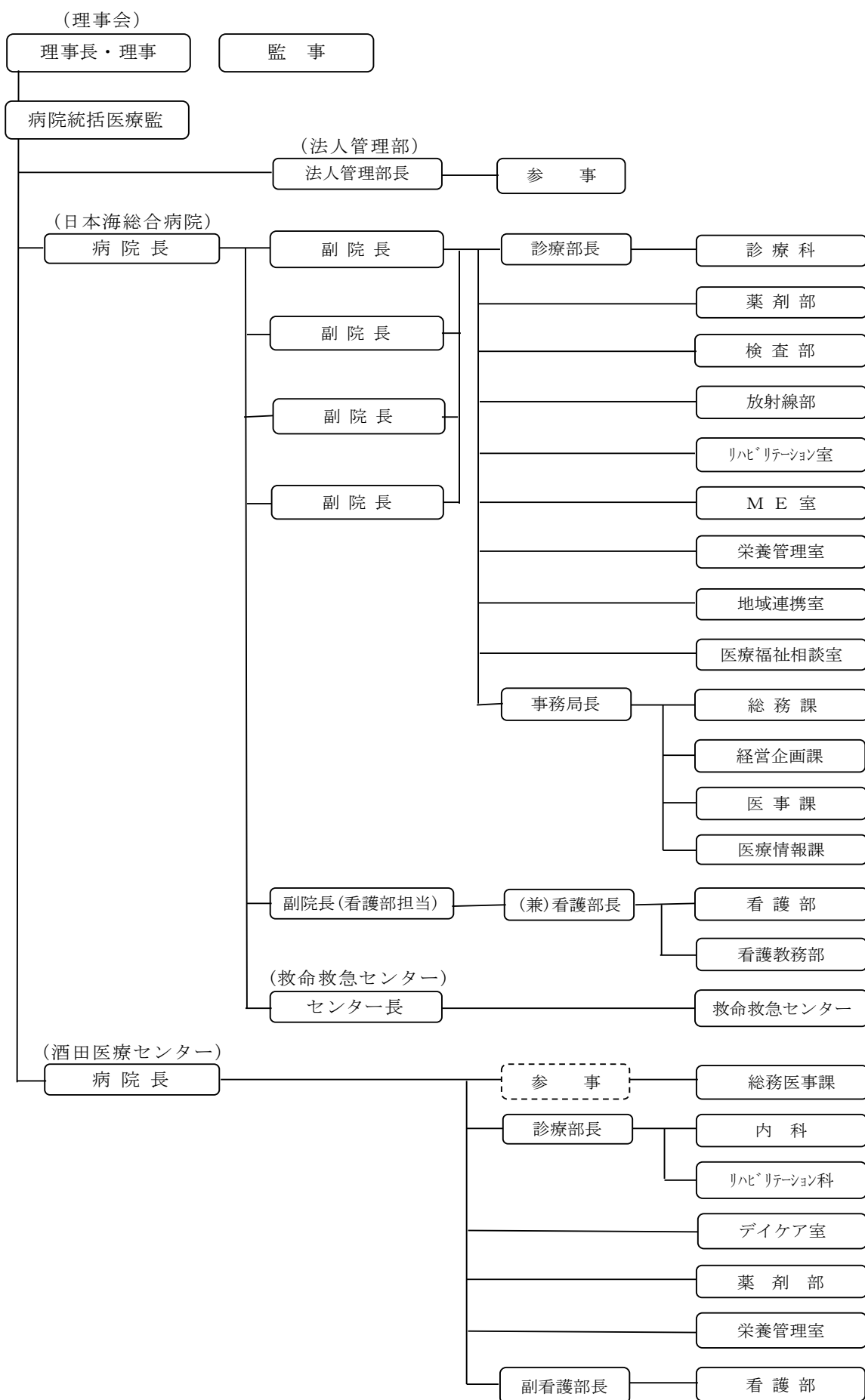
職名	氏名
理事長	栗谷 義樹
理事	島貫 隆夫
理事	鈴木 晃
理事	小熊 正樹
理事	内村 文昭
理事	齊藤 宗一
理事	佐藤 由枝
理事	菅原 司
監事	齋藤 俊勝
監事	加藤 栄

### ⑤ 設置、運営する病院

日本海総合病院	酒田市あきほ町30番地
日本海総合病院酒田医療センター	酒田市千石町二丁目3番20号

⑥ 組織

組 織 機 構



⑦ 職員の状況

(4月1日現在)

職種	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H27	H28	増減	H27	H28	増減	H27	H28	増減
医師・歯科医師	138	142	4	3	3	0	141	145	4
医療技術員	140	143	3	33	39	6	173	182	9
看護・介護職員	570	572	2	53	54	1	623	626	3
事務職員	46(6)	45(1)	△1	5(1)	5(1)	0	51(7)	50(2)	△1
スタッフ職員	42(1)	41	△1	5	5	0	47(1)	46	△1
計	936(7)	943(1)	7	99(1)	106(1)	7	1,035(8)	1,049(2)	14
法人職員	927	935	8	96	103	7	1,023	1,038	15
県派遣職員	6	6	0	0	0	0	6	6	0
市派遣職員	3	2	△1	3	3	0	6	5	△1

※( )は法人管理部職員数で内数

⑧ 資本金の状況

14,691,983,678円 (平成28年9月7日変更登記時)

## ◇平成28年度の事業概要

日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センター(以下「酒田医療センター」という。)は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取組みを行った。

### 1 病床機能の分化・連携

#### (1) 日本海総合病院の機能

「高度急性期」医療機能を有し、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向け、次表のような診療密度が特に高い医療の提供に努めた。

##### 【日本海総合病院の機能】

項 目	概 要								
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般病床</td> <td style="text-align: right;">6 4 2床</td> </tr> <tr> <td>（うち、救命救急センター</td> <td style="text-align: right;">2 4床）</td> </tr> <tr> <td>感染症病床</td> <td style="text-align: right;">4床</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6 4 6床</td> </tr> </table>	一般病床	6 4 2床	（うち、救命救急センター	2 4床）	感染症病床	4床	合 計	6 4 6床
一般病床	6 4 2床								
（うち、救命救急センター	2 4床）								
感染症病床	4床								
合 計	6 4 6床								
標 榜 科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科								
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急センター（ICU、HCU）</li> <li>・PETセンター</li> <li>・外来化学療法室</li> <li>・LDR室（陣痛・分娩・回復室）</li> <li>・未熟児室</li> <li>・認知症疾患医療センター</li> <li>・特殊診察室及び感染症室（陰圧・陽圧室）</li> <li>・人工透析室</li> <li>・ハイブリッド手術室</li> <li>・地域医療支援病院</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院</li> <li>・災害拠点病院</li> <li>・へき地医療拠点病院</li> <li>・臨床研修病院</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>								

## (2) 酒田医療センターの機能

急性期を経過した患者について、次のような医療を提供した。

- ① 「回復期」医療機能を有し、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供した。
- ② 「慢性期」医療機能を有し、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受け入れを行った。

### 【酒田医療センターの機能】

項目	概要						
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">医療療養型療養病床</td> <td style="text-align: right;">35床</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病床</td> <td style="text-align: right;">79床</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">114床</td> </tr> </table>	医療療養型療養病床	35床	回復期リハビリテーション病床	79床	合 計	114床
医療療養型療養病床	35床						
回復期リハビリテーション病床	79床						
合 計	114床						
標榜科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科						
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期リハビリテーション</li> <li>・通所リハビリテーション</li> <li>・在宅重症難病患者一時入院機能</li> <li>・機能訓練室</li> <li>・デイケア室</li> <li>・臨床研修病院</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>						

## 2 高度専門医療・回復期医療の提供及び医療水準の向上

### (1) 高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

#### ア 診療体制の充実

##### (ア) 救急医療(日本海総合病院)

- ① 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努めた。

【実績】救命救急センター延べ患者数

H25	H26	H27	H28
24,653名	24,012名	25,039名	23,619名

- ② 酒田地区広域行政組合及び鶴岡市消防本部との連携を強化し、救急医療の充実を図るため、救急医療講演会を開催した。

実施日等	研修内容	参加人数
H29. 2. 22 日本海総合病院 講堂	「大津波 漂流 そして生還 ～被災者が思う防災への備え～」 講師：株式会社朝日海洋開発 代表取締役社長 安倍 淳 氏	152人

- ③ 救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、平日夜間救急外来を継続して行った。

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数

	H25	H26	H27	H28
小児科	639名	581名	624名	585名
その他	1,582名	1,280名	1,250名	1,081名

#### (イ)がん医療(日本海総合病院)

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

	H25	H26	H27	H28
手術	1,117件	1,068件	1,117件	1,093件
放射線療法	7,928件	6,726件	7,959件	7,931件
外来化学療法	4,922件	3,739件	4,337件	4,167件

※「外来化学療法」は、延べ件数である。

- ② 高度専門的ながん医療を提供するための治療装置として、県全体の体制を踏まえ高精度放射線治療装置(I M R T)の導入を決定し併せて治療棟の整備計画を策定した。
- ③ 専門的な知識を有する医療従事者等を「医療・福祉センター」に配置すると共に、従事者を専門研修に参加させ体制の強化を図った。

【実績】がん相談件数

H25	H26	H27	H28
1,204件	963件	1,041件	1,142件

- ④ 早期に適切な緩和ケアを提供するため、医師へ緩和ケア研修会に参加させ体制の強化を図った。

【実績】がん患者の主治医や担当となる医師の緩和ケア研修会受講率：92.4% (H29.3.31)

- ⑤ 地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行い、がん対策の進展に貢献した。

【実績】がん登録件数

	H25	H26	H27	H28
院内がん登録	1,705件	1,589件	1,379件	1,709件
地域がん登録	1,680件	1,549件	1,389件	1,661件

## (ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)

- ① 高度専門的な内科的又は外科的治療を速やかに行うとともに、患者の早期回復を図るため、早期にリハビリテーションを開始し、休日も心大血管リハビリテーションを継続して実施した。

### 【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

	H25		H26		H27		H28	
	実患者数	回数 (単位数)	実患者数	回数 (単位数)	実患者数	回数 (単位数)	実患者数	回数 (単位数)
脳血管疾患	1,400名	43,956回	1,492名	49,034回	1,146名	48,726回	772名	42,652回
心大血管疾患	534名	12,453回	689名	17,556回	698名	16,770回	752名	19,051回

### 【実績】休日の心大血管リハビリテーション実施件数

H26			H27			H28		
延患者数	回数	日数	延患者数	回数	日数	延患者数	回数	日数
1,341名	1,571回	121日	1,407名	1,542回	123日	1,225名	1,357回	122日

- ② 急性心筋梗塞の救急搬送患者に対しては、速やかに集中治療室に転送し、迅速な救命治療の実施を行った。また、術後の速やかなリハビリテーションの開始により患者の機能回復に努めた。

## (エ)糖尿病(日本海総合病院)

医師、看護師及び管理栄養士等が協働して、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を次のとおり行った。

### 【実績】糖尿病教室

	H25	H26	H27	H28
開催回数	14回	16回	19回	19回
参加人数	44名	55名	65名	69名

### 【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

	H25	H26	H27	H28
実患者数	25名	30名	14名	6名
指導回数	55回	73回	32回	19回

### 【実績】教育入院患者数

	H25	H26	H27	H28
	52名	65名	66名	64名

### 【実績】個別栄養指導件数

	H25	H26	H27	H28
入院	252件	300件	298件	253件
外来	327件	400件	396件	296件
合計	579件	700件	694件	549件



### (オ)精神疾患(日本海総合病院)

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供した。

【実績】精神科電気痙攣療法の実施件数

H26	H27	H28
164件	147件	109件

### (カ)小児・周産期医療(日本海総合病院)

- ① 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応など、周産期に係る高度な産科医療を実施した。

【実績】母体・新生児の救急受入れ状況

H26		H27		H28	
救急受入れ患者数	緊急帝王切開術(件)	救急受入れ患者数	緊急帝王切開術(件)	救急受入れ患者数	緊急帝王切開術(件)
母体	22件	母体	27件	母体	26件
新生児		新生児		新生児	
7名		5名	4名	19名	4名

- ② 産科及び小児科の専門医の充実した体制により、地域の住民が安心して出産できる環境を提供した。また、三次周産期医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院との連携を図った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

	H26	H27	H28
救急搬送患者数(母体)	5名	6名	14名
救急搬送患者数(新生児)	3名	1名	2名

### (キ)回復期リハビリテーション(酒田医療センター)

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADLを改善し、早期に在宅療養又は社会復帰ができるようリハビリテーションを集中的に提供するため、理学療法士、作業療法士を各3名増員し35名体制とし、休日を含めたリハビリテーションの提供体制の充実に努めた。また、通所リハビリテーションの定員を10名から20名に増員し、利用者の拡大を図った。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

	H25		H26		H27		H28	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
脳血管疾患	269名	48,761回	375名	66,175回	323名	85,823回	258名	82,014回
運動器	311名	15,583回	187名	29,045回	166名	30,572回	183名	44,051回

## (ク) 在宅医療支援及び療養支援

- ① 日本海総合病院では、退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスを受けることができるよう、地域連携室の看護師7名及び医療福祉相談室の退院支援専任社会福祉士1名（退院支援職員）が地域の介護・福祉・医療機関との連携を図りながら、患者との退院調整業務を行った。

【実績】退院調整件数(日本海総合病院)

	H25	H26	H27	H28
他 病 院	953件	984件	893件	969件
在 宅	492件	416件	450件	13,878件
介護老人保健施設	84件	98件	101件	134件
介護老人福祉施設	110件	118件	92件	84件
ショートステイ	101件	82件	75件	137件
有料老人ホーム	130件	112件	151件	222件
そ の 他	61件	69件	62件	118件
合 計	1,931件	1,879件	1,824件	15,542件

※H28年度の在宅への退院調整件数について

H28年度診療報酬改定により、各病棟に専任の退院支援職員を配置したことから、在宅への退院調整件数が大幅に増加した。

- ② 在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、「大腿骨近位部骨折地域連携パス」及び「脳卒中地域連携パス」を運用し連携を図りながら関連施設や関連機関との診療情報の共有及び評価を行いながら支援した。

【実績】地域連携診療計画加算算定数(日本海総合病院)

	H28
地域連携診療計画加算	295件

- ③ 酒田医療センターは、訪問リハビリテーションの実施を検討するにあたり、現在行っている通所リハビリテーションの中で、リハビリテーション以外の入浴等の時間を省いた短時間のリハビリテーションの必要性が再認識されたため、今後の提供体制を引き続き検討することとした。
- ④ 酒田医療センターは、在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となった患者を22名受け入れた。

## イ 高度医療機器の計画的な更新・整備(日本海総合病院)

- ① 高度専門医療等の充実のため、平成28年度は次のとおり医療機器の更新を行った。

【実績】

診療科	機器名	備考
外科	内視鏡外科手術システム	更新
消化器内科	内視鏡部門システム	更新
放射線部	全身用X線CT診断装置(256列)	更新

- ② 高度医療機器については、装置の稼働率、設置に対する採算性、収支の予測を十分に  
行い更新した。

## ウ 災害時や健康危機における医療協力(日本海総合病院)

- ① 平成 28 年熊本地震においては、山形県からの派遣要請を受け、日本海総合病院職員 5  
名(医師 1 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名、検査技師 1 名)からなる医療救護班を 5 日間(4  
月 25 日(月)～30 日(土))被災地に派遣した。
- ② 庄内 SCU(航空搬送拠点臨時医療施設)の機能整備への協力として、山形県所有の医療用  
資機材を日本海総合病院の DMAT 資材庫で保管し、引き続き管理を行った。
- ③ 災害拠点病院の機能を十分に発揮できるように、災害時に必要な医療物資等を備蓄するほ  
か優先納入契約を継続し、災害時医療体制の充実・強化を図った。また、食糧備蓄として  
カロリーメイトロングライフ(600 食分)の補充を行った。
- ④ 周辺地域で災害等が発生した場合に備え、災害対策委員会が主体となって、日本海総合  
病院全職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に、災害医療研修及び訓練を次のとお  
り実施した。また、平成 28 年 10 月 1 日に山形県で開催された東北ブロック DMAT 参集訓  
練と合同で当院の実働訓練を実施し、当院の支援 DMAT として合計 8 チームが来院した。

実施日	場所	内 容	参加人数
H28. 5. 19	日本海総合病院 講堂	(災害医療研修会) 災害医療の基礎とトリアージ	179 名
H28. 6. 30	日本海総合病院 講堂・エントランスホール	(災害医療研修会) 模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力：酒田地区広域行政組合消防本部	160 名 (うち院外 5 名)
H28. 7. 21	日本海総合病院 講堂	(災害医療研修会) 大規模災害発生時の日本海総合病院の役割 (発展編)	151 名
H28. 9. 3	日本海総合病院 エントランスホール	災害対応机上訓練 (机上での災害対応訓練の流れ)	146 名
H28. 10. 1	日本海総合病院 エントランスほか	災害対応実働訓練 (東北ブロック DMAT 参集訓練と合同で実働 訓練を実施) 協力：酒田地区広域行政組合消防本部 酒田市立酒田看護専門学校	259 名

他の機関が実施した災害医療訓練又は研修に、次のとおり参加した。

実施日	会場	訓練・研修名	参加人数
H28. 5. 21～22	福島市	DMAT 技能維持研修(東北ブロック)	3 名
H28. 8. 6	愛知県	総合防災訓練	4 名
H28. 9. 4	酒田市	酒田市総合防災訓練	5 名
H28. 10. 1～2	山形県	東北 DMAT 参集訓練	15 名
H29. 2. 20～23	東京都立川市	災害派遣医療チーム研修(隊員要請研修)	2 名
H29. 3. 25～26	宮城県松島町	DMAT ロジスティックチーム隊員養成 研修(応用編)	1 名

他の機関が実施した災害医療訓練及び研修に、次のとおりインストラクターを派遣した。

実施日	会場	訓練・研修名	派遣人数
H28. 5. 21～22	福島市	DMAT 技能維持研修(東北ブロック)	2名
H28. 8. 6	山梨県	総合防災訓練	2名
H28. 10. 1～2	山形県	東北 DMAT 参集訓練	2名
H29. 1. 14～15	仙台市	DMAT 技能維持研修(東北ブロック)	2名

- ⑤ 地域住民の生命を脅かす新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生した際に、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう、庄内保健所主催による研修会に参加した。

実施日等	研修内容	日本海総合病院参加者
H28. 11. 2 鶴岡市立庄内病院	「新型インフルエンザ等発生時に備えた院内感染対策」 講師：山形大学医学部附属病院検査部・感染制御部長 森兼 啓太 先生	院内感染対策委員長

## エ 政策医療の実施(日本海総合病院)

- ① 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、当地域の民間の医療機関では導入が困難である、高精度放射線治療装置( I M R T )の導入を決定した。
- ② 第二種感染症指定医療機関として、感染症に迅速かつ的確に対応するため、関係機関とともに「庄内地域新型インフルエンザ等関係機関対策合同訓練」に参加した。

実施日等	関係機関	日本海総合病院参加者
H28. 11. 2 鶴岡市立庄内病院	鶴岡市立庄内病院 鶴岡市消防本部 庄交ハイヤー株式会社	院内感染対策委員会 3名

- ③ 認知症疾患医療センター運営事業実施要綱に基づき、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を引き続き行った。

【実績】相談件数

	H25	H26	H27	H28
新規相談件数	733 件	741 件	591 件	502 件
継続相談件数	416 件	355 件	321 件	342 件

- ④ へき地医療拠点病院として、酒田市との協定により酒田市飛島診療所に4月から10月まで合計21回医師を派遣し、離島の診療応援を行い、地域住民の医療の確保に努めた。

【実績】平成28年度 飛島診療所 診療応援医師派遣回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
回数	2回	2回	2回	3回	4回	5回	3回	21回

へりでの患者受入1回

- ⑤ 地域において必要性の高い救急医療、周産期医療、小児医療を担う医療機関として、救急科専門医1名を育成した。
- ⑥ 脳死下臓器移植について、院内コーディネーター及び関係部門が参加し、脳死下における臓器提供の必要性に関する研修会を開催した。

実施日等	研修内容	参加人数
H29. 3. 10 日本海総合病院 講堂	「なぜ、山形で臓器提供が必要か？」 講師：山形大学医学部腎泌尿器外科学講座 助教 西田 隼人 先生	53 人

## (2) 医療スタッフの確保及び資質向上

### ア 医療人材の確保・育成

- ① 日本海総合病院は、高度専門医療等の安定的な提供を図るため、延べ221名の職員を学会等へ派遣し、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努めた。

【実績】平成28年度新規取得の主な専門資格

日本食道学会食道科認定医、日本てんかん学会てんかん専門医、  
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

- ② 日本海総合病院は、新しい専門医制度の開始に伴い、専門研修基幹施設として関連大学等と調整し、内科領域の専門研修プログラムを申請した。
- ③ 日本海総合病院は、臨床研修医27名、レジデント(専門分野の研修医)26名を受入れ、医師の確保に努めた。
- ④ 日本海総合病院は、地方独立行政法人那覇市立病院2年次臨床研修医1名と日本海総合病院2年次臨床研修医4名との間で、臨床研修医を相互に受け入れる交換地域医療研修を実施した。
- ⑤ 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、役職別の研修(年6回)に加え、各部門独自で専門能力を高める研修や、特別研修としてコミュニケーション能力向上のアサーティブ研修を開催した。
- ⑥ 優秀な看護師及び助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与を継続して行い、5名の新規貸与者を含む計14名に貸与した。また、貸与終了した3名のうち2名を当機構職員として採用した。

### イ 事務職員の確保と専門性の向上

- ① 専門資格の取得など事務職員の資質向上を図るため、診療情報管理士通信教育を6名、メディカルレコードコーディネーター養成のための診療情報管理講座を11名が受講した。
- ② 病院運営の高度化・複雑化に対応できる事務職員育成の取り組みとして、役職別、希望別に事務能力向上を目的とした研修を6回開催し、延べ135名が受講した。

## ウ 職員の勤務環境の改善

- ① 職員が仕事に誇りを持ち、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を確保し、意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりとして、育児短時間勤務、病児・病後時保育、夜間保育などの活用を推進し、働きやすい職場作りに努めた。
- ② 家族の介護や子育て等を行う医師を支援するとともに、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を取り入れた。

【実績】医師短時間職員制度及び育児短時間制度の利用者：各1名

- ③ 病棟看護師の負担軽減と勤務形態の多様化を図るため、二交代制勤務の導入を検討し、試行していた4階南病棟について平成28年11月から本格実施した。また、平成29年2月から3階南病棟の試行を開始した。
- ④ 病棟及び外来に医師事務作業補助者を配置し、医療従事者の負担軽減を図った。

【実績】医事クラークの配置数

H25	H26	H27	H28
59名	52名	61名	64名

## (3)医療サービスの効果的な提供

### ア 地域連携の推進

- ① 日本海総合病院は、良質な医療サービスを効果的に提供するため、庄内二次医療圏における中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との連携を推進し、日本海総合病院においては、地域医療支援病院の指定要件の目標値である紹介率 50%かつ逆紹介率 70%以上を達成した。

【実績】年度別 紹介率、逆紹介率

	H25	H26	H27	H28	【目標値】
紹介率	62.2%	47.2%	52.7%	64.4%	50%以上
逆紹介率	47.2%	67.5%	77.8%	97.2%	70%以上

※地域医療支援病院における算出方法による。(歯科口腔外科を含む。)

- ② 日本海総合病院は、山形県立こころの医療センターと平成26年度から締結している「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」及び「医療観察保護法対象者の入院受入協定書」に基づき、医療観察法病棟等に入院した患者で、急性期医療が必要となった患者の受入れを行った。

【実績】平成28年度 医療観察保護対象患者の入院受入件数：1件

- ③ 日本海総合病院は、患者の広域化に対応し、ICTを活用して地域、医療圏を超えた医療連携を推進するため、H29年3月に県立中央病院と連携を開始した。また、H29年3月に全県域ネットワーク協議会担当者会議に参加した。
- ④ 地域包括ケアシステムの構築に向け、行政機関、地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関との積極的な情報交換や、退院時カンファレンスの取り組みの強化等により、医療から介護・福祉へと円滑かつ切れ目のないサービスの提供に努めた。

【実績】 指導件数

	H25	H26	H27	H28
退院時共同指導	53 件	73 件	68 件	90 件
介護支援連携指導	775 件	795 件	877 件	1,033 件

イ 診療情報の共有化

- ① 庄内二次医療圏全体で、効率的で適切な医療やケアを提供するため、地域医療情報ネットワーク等の ICT を活用し、他の医療機関や介護・福祉施設等との診療情報の共有化を推進するため「ちょうかいネット」における検診データ開示範囲の拡大を行った。

【実績】

H28.4	酒田市国保の特定健診についてデータを開示
H28.10	特定健診の開示範囲に遊佐町と庄内町を追加
H29.2	内視鏡画像の開示を開始

- ② 日本海総合病院は、公的個人認証サービスの実証実験について協議を行い、平成 29 年度の総務省「医療等分野における高精細映像等データ共有基盤の在り方に関する実証実験」に参加することとした。

ウ 地域連携クリティカルパスの活用(日本海総合病院)

- ① 効率的で適切な医療を提供するため「ちょうかいネット」を活用し、大腿骨頸部骨折、5 大がん、前立腺がん、脳卒中等の地域クリティカルパスの適用件数の増加に努めた。

【実績】 地域連携クリティカルパス適用件数

	H25	H26	H27	H28
肺 が ん	0 件	0 件	0 件	0 件
大 腸 が ん	19 件	21 件	15 件	11 件
肝 が ん	0 件	0 件	0 件	0 件
乳 が ん	18 件	14 件	17 件	16 件
胃 が ん	27 件	19 件	24 件	19 件
大腿骨頸部骨折	118 件	144 件	110 件	128 件
脳 卒 中	290 件	246 件	226 件	194 件
心臓リハビリテーション		87 件	112 件	116 件
前 立 腺 が ん		17 件	48 件	65 件

- ② 地域で支える「地域完結型医療」を推進するため、平成 29 年 3 月から庄内脳卒中地域連携パスの運用を開始した。

(4) 教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上(日本海総合病院)

- ① 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、関連大学の医学生を受け入れるなど、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】臨床研修医等の受入れ状況

	H25	H26	H27	H28
臨床研修医	20名	28名	29名	28名
レジデント	23名	28名	22名	26名
スチューデントドクター	38名	51名	87名	75名
臨床医学修練生	1名	2名	2名	1名
地域医療実習生	4名	4名	4名	5名

- ② 酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、優秀な看護師を育成するため、平成29年度看護教員養成研修に派遣する職員を選出した。
- ③ プレホスピタルケア技術の向上を図るため、救急救命士養成課程の臨床実習、就業前研修、再教育実習及び山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計64名の実習生を受け入れた。

【実績】

	H25	H26	H27	H28
臨床実習	7名	4名	4名	3名
就業前研修	3名	3名	3名	5名
再教育実習	24名	36名	38名	41名
病院実習	8名	9名	9名	15名
計	42名	52名	54名	64名

イ 住民意識の啓発活動(日本海総合病院)

- ① 医療や健康に関する情報発信として、生涯学習施設里仁館で開催される健康講座に職員を派遣するとともに、広報紙「あきほ」を年4回発行し、正しい医療知識の啓蒙に努めた。

【実績】

講師	題名	開催日
緩和ケア認定看護師	緩和ケアについて	5/25(水)
呼吸器外科医師	肺癌の外科治療	6/22(水)
脳神経外科医師	脳卒中の治療と予防	7/20(水)

- ② 住民の健康意識の向上のため、地域住民を対象に市民公開講座を開催し、がんに関する情報提供を行った。

【実績】

実施日等	研修内容	参加人数
H28.8.27 ホテルリッチ& ガーデン酒田	知っておきたい「がん」と「お金」のお話 ～仕事と治療を両立するために～ 講師:伊藤社会保険労務士事務所 伊藤美智子先生	70人



### 3 患者・住民の満足度の向上

- ① 日本海総合病院は、患者休憩室を新たに整備するとともに、患者や家族のニーズを把握するアンケートを実施し、結果を受けて下記の改善を進めた。
  - ア 「身だしなみ基準」の作成
  - イ 授乳室の新設
  - ウ 形成外来スペースに待機場所新設
  - エ 病棟の空調作動時間を延長
- ② 日本海総合病院は、来院者の意見を取り入れ、院内環境等の快適性の向上、受付から会計までの在院時間の短縮のため、エントランスにおける患者等の動線の見直しを行った。
- ③ 今後、策定される地域医療構想を踏まえ、それぞれの病院の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」、市広報等を活用してPRを行った。

### 4 法令等の遵守と情報公開の推進

- ① 法令順守意識の徹底のため、コンプライアンス等の職員研修を実施した。
- ② 山形県・酒田市病院機構における各病院の経営状況を病院概要の発行及びホームページで公表した。
- ③ インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。

#### 【実績】 診療情報提供申出件数

	H25	H26	H27	H28
日本海総合病院	70 件	64 件	74 件	60 件
酒田医療センター	2 件	2 件	3 件	2 件

- ④ 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、職員及び「ちょうかいネット」の利用者等を対象に次のとおり研修等を行った。また、電子カルテログオフの徹底および個人情報の取り扱い、罰則規定について全職員に周知した。

#### 【実績】

実施年月日	内 容
H28. 5 及び H28. 11	電子カルテへのアクセス歴監査を実施（強化月間）
H28. 8. 23 及び H29. 3. 23	ちょうかいネット新規参加の全 5 施設 11 名に対してセキュリティ研修会を実施した。
H29. 3	「ちょうかいネット」全参加施設(103 施設)に対してセキュリティに関するアンケート調査を実施すると共に適切な利用方法の解説を行った。
H29. 3～	事務局の端末を仮想デスクトップ環境に変更し、事務部門の情報セキュリティを強化した。

## 5 医療安全対策の充実・強化

- ① 住民に信頼される良質な医療を提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の訪問審査を10月26～27日に受審。平成29年2月3日に一般病院2 機能種別版評価項目3rd G: ver.1.1に認定された。(認定期間H29.2.3～H34.2.2)
- ② 患者安全管理体制の推進・強化を図るため、医療安全対策委員会を中心に次のような活動を行った。

実施日等	研修内容等	参加人数
H28.6.13 日本海総合病院 講堂	医療安全対策委員会第1回全体研修会 『医療安全の基本的考え方～転倒転落について～』 講師：パラマウントベッド(株)技術開発部 主席研究員 元日本赤十字事業局医療事業部 医療安全課長 杉山 良子氏	248名
H29.1.13 日本海総合病院 講堂	医療安全対策委員会第2回全体研修会 『今改めて考える医療安全 2017～事例から学ぶリスクマネジメント～』 講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社 医療本部第三医療本部 部長 山本 貴章氏	247名

医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者(リスクマネージャー)と連携しながら、インシデントの事例共有、分析、改善策について検討し、医療安全対策の一層の向上に努めた。

院内感染の防止を図るため、感染制御チーム及び院内感染対策委員会を中心に次のような活動を行った。

実施日等	研修内容等	参加人数
H28.9.1 日本海総合病院 医局会議室・講堂	院内感染対策委員会第1回研修会 「ノロウイルスとおうとぶつ処理方法～嘔吐物処理セットの使い方～」 講師：ハクゾウメディカル株式会社 藤井 亮輔氏	312名
H29.3.24 日本海総合病院 講堂	院内感染対策委員会第2回研修会 「ばい菌と人間と抗生剤の深～い関係:耐性菌の現状と抗菌薬の適正使用を中心に」 講師：山形大学医学部附属病院検査部・感染制御部長 森兼 啓太 先生	157名

院内感染防止対策及び院内感染発生時の対応等における院内感染対策体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることに努めた。

- ③ 医療安全マニュアルについて、各部門のリスクマネージャーと連携を図りながら必要に応じた改訂を行い、また、院内感染対策マニュアルについても、その都度、必要に応じて速やかに改訂を行った。両マニュアル共に改訂後は速やかに院内全体へ周知を行った。

## 6 組織マネジメントの強化

運営委員会、診療部代表者会議、業務改善委員会、経営会議等を定期的で開催し、組織マネジメントの強化に努めた。

## 7 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

- ① 医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、定期及び臨時の人事異動により適材適所の配置に努めた。
- ② PCPS (心臓の補助循環装置)使用患者発生時の対応を強化するため、臨床工学技士の宿日直勤務を導入し、効率的な業務運営に努めた。

## 8 経営基盤の安定化

### (1) 収入の確保

- ① 平成28年度における患者数等は次のとおりであった。

#### 【患者動向】

区分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H27	H28	増減	H27	H28	増減	H27	H28	増減
延入院患者数(人)	190,458	188,230	△ 2,228	35,486	37,404	1,918	225,944	225,634	△ 310
実入院患者数(人)	16,252	16,058	△ 194	573	579	6	16,825	16,637	△ 188
入院/1日(人)	520.4	515.7	△ 4.7	97.0	102.5	5.5	617.4	618.2	0.8
病床利用率(%)	82.6	81.9	△ 0.7	85.0	89.9	4.9	-	-	-
病床回転率(%)	260.7	260.0	△ 0.7	49.5	46.5	△ 3.0	-	-	-
平均在院日数(日)	11.7	11.7	0.0	61.6	65.4	3.8	-	-	-
延外来患者数(人)	340,823	335,448	△ 5,375	810	816	6	341,633	336,264	△ 5,369
新外来患者数(人)	32,318	29,538	△ 2,780	59	65	6	32,377	29,603	△ 2,774
外来/1日(人)	1,402.6	1,380.4	△ 22.2	3.3	3.4	0.1	1,405.9	1,383.8	△ 22.1
病床数	630	630	0	114	114	0	744	744	0

#### 【患者1人1日当たりの診療単価(税抜)】

単位：円

日本海総合病院	H27	H28	増減	酒田医療センター	H27	H28	増減
入院	62,990	63,328	338	入院	26,555	26,933	378
外来	14,713	14,504	△ 209	外来	3,574	3,774	200

- ② 診療報酬点検委員会において対策を迅速に行い、改善事項については速やかに院内周知を行った。
- ③ 診療報酬改定等を始め各種制度の変化に迅速に対応し、施設基準(総合入院体制加算2、認知症ケア加算1)の取得により増収を図った。
- ④ 未収金の発生防止及び早期回収に努めるため、平成29年2月から、弁護士法人に個人医療未収金回収業務を委託した。

### (2) 費用の抑制

職員給与費比率、材料費比率等は次のとおりであった。

#### 【営業収益に占める主な費用の比率】

	職員給与費	材料費	
			うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	45.7%	25.8%	13.9%
酒田医療センター	70.7%	2.4%	1.5%

## 9 収支の実績

収支は次のとおりであった。

### 【営業収支比率及び経常収支比率】

	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	103.9%	103.8%
酒田医療センター	87.5%	93.7%
病院機構全体	102.8%	103.1%

## (1) 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	21,772	22,030	258
営業収益	18,818	18,978	160
医業収入	18,222	18,401	179
運営費負担金	596	577	△19
営業外収益	1,024	1,036	12
運営費負担金等	893	837	△56
その他	131	199	68
資本収入	1,929	2,011	82
金銭出資の受入	1,244	1,244	0
長期借入金	685	767	82
その他の収入	1	5	4

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支出	21,120	20,736	△384
営業費用	17,880	17,396	△484
医業費用	17,703	17,226	△477
給与費	9,191	9,232	41
材料費	5,423	5,034	△389
経費	2,993	2,877	△116
研究研修費	96	83	△13
一般管理費	177	170	△7
営業外費用	328	321	△7
資本支出	2,912	3,018	106
建設改良費	816	924	108
長期借入金返還金	2,087	2,086	△1
修学資金貸付	9	8	△1
その他の費用	0	1	1

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

## (2) 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	19,812	20,003	191
営業収益	18,793	18,956	163
医業収益	18,191	18,370	179
運営費負担金収益	596	577	△19
資産見返補助金等戻入	6	9	3
営業外収益	1,018	1,026	8
運営費負担金収益	893	837	△56
その他医業収益	125	189	64
その他の収入	1	21	20
支 出	19,745	19,416	△329
営業費用	18,763	18,432	△331
医業費用	18,598	18,274	△324
一般管理費	165	158	△7
営業外費用	971	942	△29
その他の費用	11	42	31
純 利 益	67	587	520

## (3) 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	32,590	34,292	1,702
業務活動による収入	19,875	20,059	184
診療業務による収入	18,222	18,448	226
運営費負担金による収入	1,489	1,414	△75
補助金等収入	32	47	15
その他の業務活動による収入	132	150	18
投資活動による収入	7,000	8,000	1,000
有価証券の売却による収入	6,000	7,000	1,000
定期預金の払出による収入	1,000	1,000	0
財務活動による収入	1,929	2,010	81
長期借入による収入	685	767	82
金銭出資の受入による収入	1,244	1,243	△1
前年度からの繰越金	3,786	4,223	437
資金支出	28,120	30,468	2,348
業務活動による支出	18,208	18,055	△153
給与費支出	9,256	9,316	60
材料費支出	5,423	4,965	△458
その他の業務活動による支出	3,529	3,774	245
投資活動による支出	7,825	10,327	2,502
有形固定資産の取得による支出	816	814	△2
無形固定資産の取得による支出	0	4	4
有価証券の取得による支出	6,000	9,500	3,500
定期預金の預入による支出	1,000	0	△1,000
その他の投資活動による支出	9	9	0
財務活動による支出	2,087	2,086	△1
長期借入の返済による支出	860	859	△1
移行前地方債償還債務等の 償還による支出	1,227	1,227	0
翌年度への繰越金	4,470	3,824	△646

## 10 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

### (1) 人事に関する事項

- ① 医療需要に対応するため、3回の職員採用試験を実施し、医療従事者の確保・育成に努めた。

【実績】

職 種	平成29年4月 採用人数
看護師	38名
薬剤師	2名
臨床検査技師	2名
診療放射線技師	2名
理学療法士	4名
作業療法士	5名
言語聴覚士	1名
社会福祉士	1名
計	55名

- ② 認定看護師や専門薬剤師等に対する手当支給や、学会参加費及び海外論文翻訳費等の助成を行うことにより、モチベーションの向上を図るとともに、認定看護師資格の新規取得者4名、更新者5名など、将来の病院運営を担う人材を育成した。

### (2) 職員の就労環境の整備に関する事項

- ① 職員一人ひとりが、それぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう、多職種によるチーム医療を推進するため、新たに「認知症ケアチーム」を発足させ活動を開始した。
- ② メンタルヘルス対策として、職員の心理的負担を把握するストレスチェック後の面接指導を実施した。(面接実施人数：日本海5名、センター3名)
- ③ 不適切な言動、行為等に起因する、職員の精神的・身体的損害及び生産性の低下を防止するため、パワーハラスメントに関する規程を新たに整備した。
- ④ 「あきほ保育園」では、年末・年始(12月29日から1月3日まで)を除き、24時間保育を実施した。また、病児・病後児保育事業を引き続き酒田市から受託し、当該事業を活用し職員の就労環境の向上に努めた。

【実績】院内保育所「あきほ保育園」利用者数

	H25	H26	H27	H28
利用者実数	33名	38名	32名	28名

【実績】院内保育所「あきほ保育園」終夜保育利用者数

	H25	H26	H27	H28
利用延べ人数	57名	99名	27名	4名



【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数	304名	233名	291名	263名	246名
(うち職員利用者数)	(85名)	(104名)	(105名)	(96名)	(90名)

(3) 医療機器・施設整備に関する事項(日本海総合病院)

- ① 高度医療機器については、装置の稼働率、設置に対する採算性、収支の予測を十分に行い更新及び整備した。
- ② 建物診断の結果に基づき策定した中長期修繕計画に従い、緊急度が高い設備2件の修繕工事を以下のとおり行った。

【実績】

工事名	執行額	概要
空調機ユニット等更新工事	31,860,000	耐用年数の超過と塩害により劣化している手術室・解剖室・中央倉庫の空調機と当該機器等の給気チャンバーBOX及び給気ダクトを更新した。
垂直搬送設備部品更新工事	21,816,000	耐用年数の超過によりメーカーからの部品供給が終了した垂直搬送設備の電動機等の部品を更新した。

- ③ 高額の医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行った。

《医療機器・施設整備の計画》

(単位：百万円)

区 分	予 定 額	財 源
資本支出		
建設改良費	924	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	89	
医療機器等	835	

(4) その他法人の業務運営に関する事項

- ① 日本海総合病院は、酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び診療所等との連携、機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図った。

日本海総合病院では、酒田市が実施した「内視鏡ドック」のうち、次の項目を継続して担った。

【実績】内視鏡ドック件数

	H24	H25	H26	H27	H28
上部内視鏡	138件	143件	142件	122件	107件
下部内視鏡	138件	143件	142件	121件	105件
胸部CT	139件	143件	142件	123件	107件
PET/CT	—	105件	49件	52件	36件

酒田地区医師会及び公益財団法人やまがた健康推進機構と役割分担を行いながら、連携して地域住民の検診を行った。

日本海総合病院は、酒田市へのふるさと納税の特典として、納税額に応じた3種類の人間ドックを実施した。

**【実績】**

	内容	利用者数	
		H27	H28
20万円コース	PET/CT(半日)	10名	10名
35万円コース	1泊2日(ドック)	0名	2名
50万円コース	2泊3日(ドック+PET/CT)	2名	2名

- ② 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」に則って酒田市以外に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整えた。